



必要な時に必要な人とつながれる 有機的なコミュニティ



子育て中の人たちが頼れ、集える施設としてスタートしたyadorigi。ママ自身が自分の生き方を考え、それを表現できる場所へと進化する中で、自身もやりたかったスポーツとの関わりをさまざまな角度から発信している。スムーズに行動に移すことができる原動力は、地域のあらゆる世代、ジャンル、背景の人とのコミュニケーションによるもの。何かあれば、たちまちつながることができる人とのローカルコミュニティが、さまざまなやりたいを可能にしている。

2032年オーストラリアのブリスベンでオリンピックが開催される。何人もの選手が沼津から決戦の地へと出発していく。ここ20年でトップアスリートが身近にいる沼津になった。

子どもたちは「あの選手みたいになりたい!」と大きな目標をもち、自分を信じられる強い気持ちをどんどん育んでいく。

自分のことを信じられる子どもがやがて、大学生になり外の世界に飛び立っていく。外の世界をたっぷりみた子はふっと「ああ!こんなことやりたいな!」と、自分の未来を自分で描きたくなる時がくる。

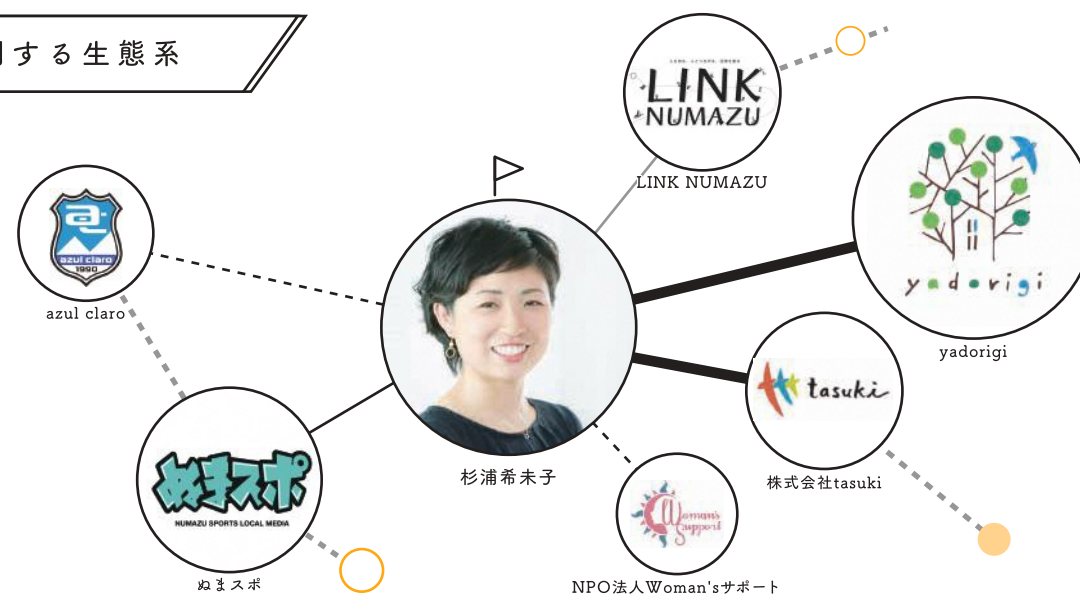
「沼津でだったら出来るかもしれない!!!」

首都圏に近い、ほどよい街感、山も川も海もある環境。そして、なによりも、沼津のヒトは好きなことをやっている大人が多い。時には見守り、時にはアドバイスしてくれる。それはトライ&エラーで色々学んできた人がきっと多いから。

この沼津は、自分を信じて行動できる人が溢れている。それはとてもとても幸福な街だと思う。



共創する生態系





朝、コーヒーを飲みながら港に行き、漁師さんと話しをしながら魚をセントラルキッチンへ。畑に向かい、農家さんのお手伝いをしながら野菜を仕入れてお店へ。野菜と惣菜を並べて、昼休み。お惣菜を狩野川沿いで食べてSUPをしたあとハンモックで昼寝。狩野川沿いの宿に泊まる、イタリアからのゲストを待ちながらコーヒーを。街を案内したあと、畑へ行き農家さんのお手伝い。畑から海に行きひと泳ぎして街へ戻りビールで喉を潤す。野菜を卸しているお店に寄りビールを飲みながら食談義。家に帰りお店の美味しいものを家族で囲む。そしてビールを飲みながら明日はどんな一日になるか想像する。

地域の生産者と食卓をつなぎ エリアを紡ぐ八百屋



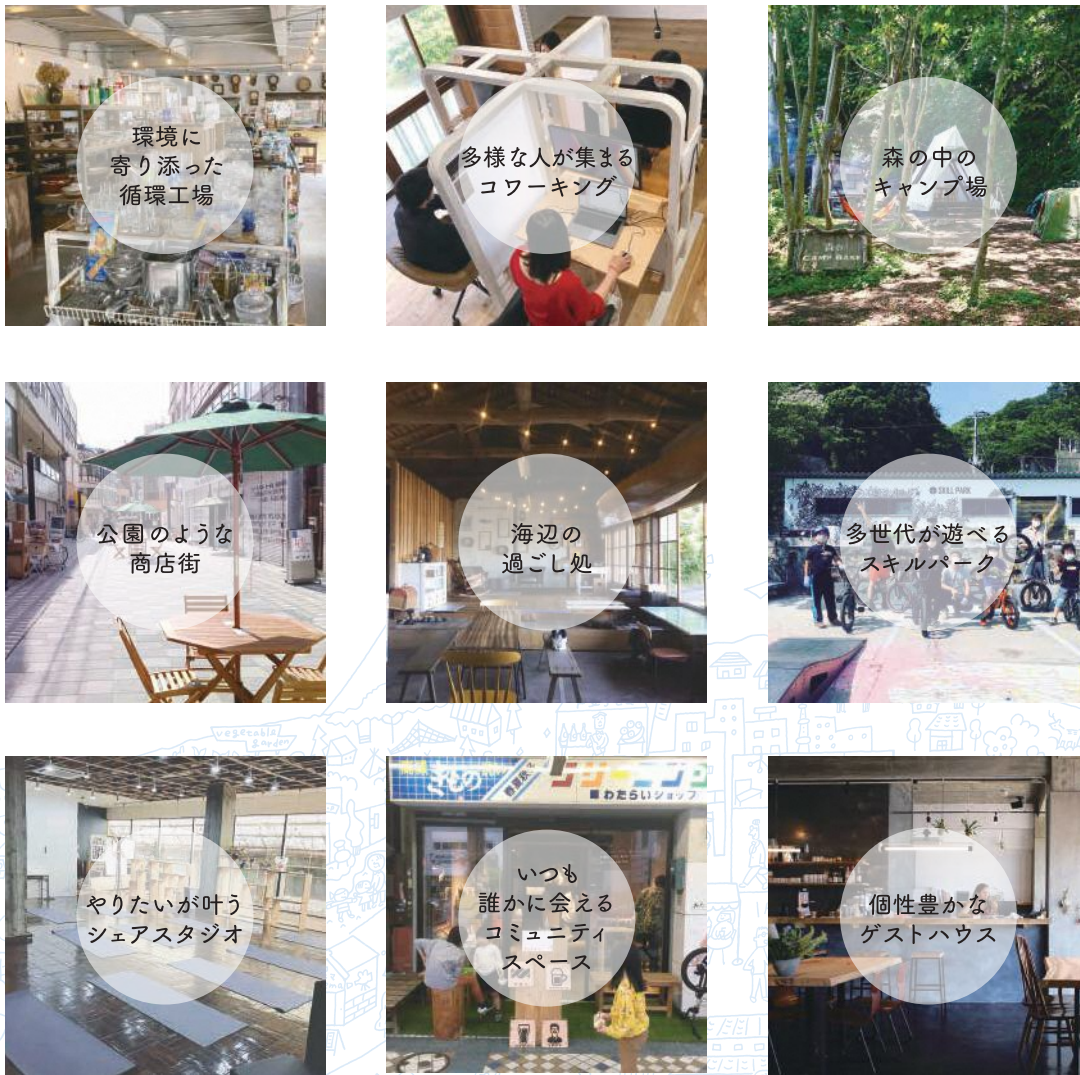
地域できちんと生産された美味しい食材を、地域の食卓や飲食店に届ける。日常の「食」の魅力について、ひとつひとつ実直に向き合っていくと、まちの様々なコンテンツや場所を紡ぐことにつながっていく。商店街にある八百屋がつなぐ、生産者とまちなかの笑顔。近くの公園、川、港、海、この地ならではの産業が魅力的に動き出す。

共創する生態系



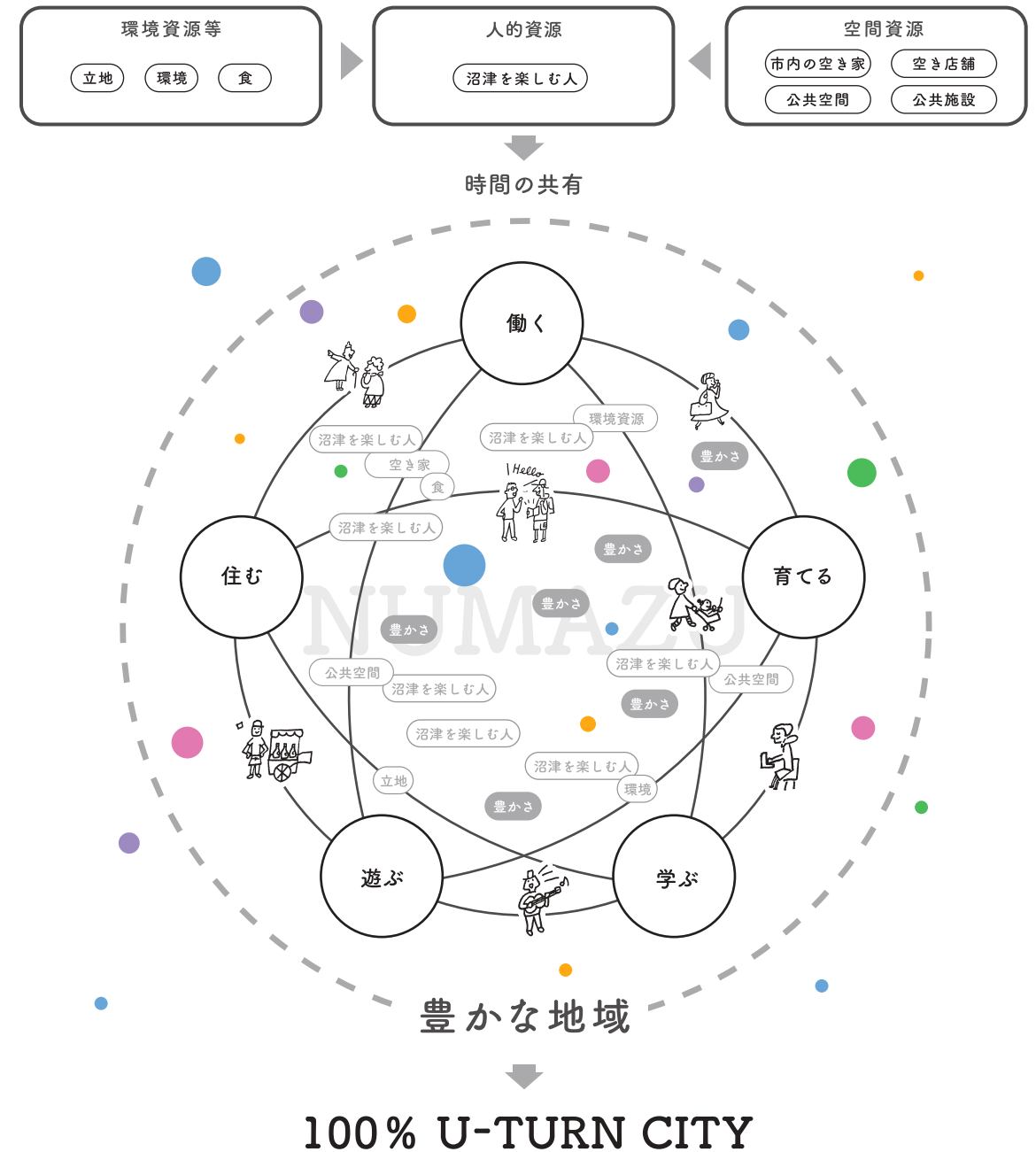
100% U-TURN CITY

本市では、多くの市民が、進学を機に市外へ転出してしまいます。同時にそれは、ほかの地で様々なスキルを身につけ活躍している人がいるということ。併せて、首都圏からのアクセスの良さを考えると、沼津は首都圏でのビジネスや住まいの2つ目の拠点となる可能性があります。本市では、「いったん離れた人たちが自分たちのまちをつくる」ことをコンセプトに、帰ってきた人が関わりやすいまちへの変革を、「リノベーションまちづくり」をきっかけに実現しています。



豊かな地域を育む

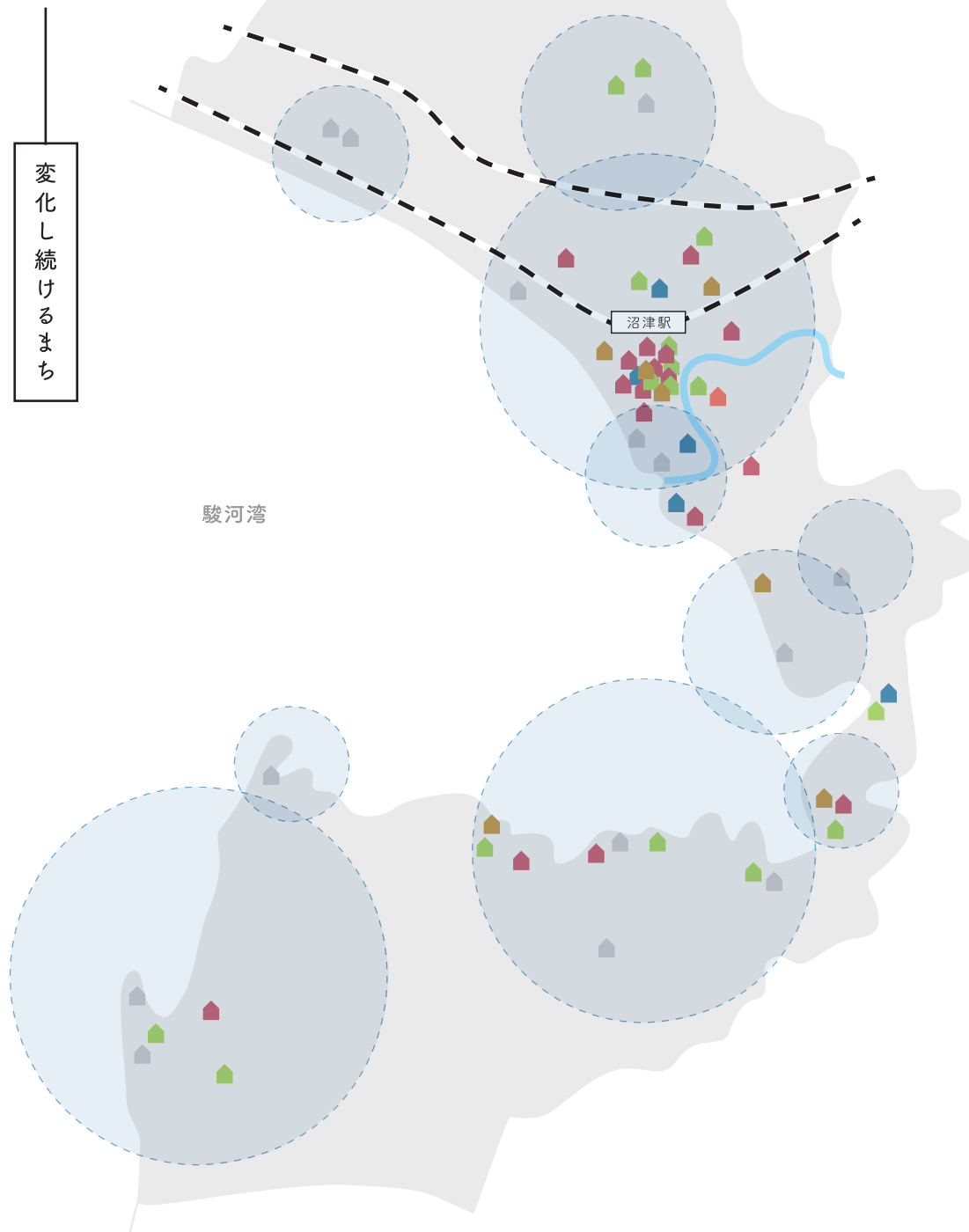
ここにしかないものや、自分にできることを深掘りしていく過程で生まれた立体的なつながりが、多様で豊かな地域をつくります。地域資源である、環境・空間・人的資源を組み合わせ、時間を共有し、少し先の未来を楽しむために、今を楽しみます。



エリアイメージ PROJECT MAP

まちなかエリア、三浦エリア、戸田エリアなど各エリアの個別プロジェクト同士が面となり、重点的にプロジェクトがおきているエリア間の連動を持たせることで、まち全体が戦略的に動いていきます。

- 🏠 遊び場をつくる
- 👶 子育ての場をつくる
- 🎓 学ぶ場をつくる
- 🏠 住まいをつくる
- 🏠 はたらく場をつくる



変化した続けるまち

駿河湾

プロジェクト（一例）

くばた農園工房

パン屋 / 西浦久料



みかん貯蔵庫を改修し、西浦地域の特産物であるヒジキなどを使用したパン、菓子などを製造販売する。

NUMAZUサイクルステーション静岡東 (スキルパーク)

スキルパーク / 口野



廃校のプール槽を新たな遊び場として再生。BMXやスケートボードなどのエクストリーム系スポーツが楽しめる。

ぬまつー(仮)

メディア



第5回リノベーションスクール@沼津で誕生した、沼津の情報を面白くてきとーに伝えるローカルメディア。毎日更新中。
<http://www.numa2.jp>

ぬましん COMPASS

まちづくりプラットフォーム / 高島町



沼津信用金庫が旧駅北支店を市や教育機関、IT企業等と連携し、シェアオフィス等を含む新たな施設に再生。

ゆうほうのさと

福祉施設 / 西浦立保



地元の特産物を使ったジュース等の製造・販売、カフェ提供を行う就労支援施設。福祉に関する相談も受け付ける。

循環ワークス

コミュニティスペース / 我入道



環境に寄り添い、「もの」や「人」を循環させてよりよい生活のしくみを考える「循環工場」です。

NUMAZU DISTILLERY (沼津蒸留所)

蒸留所 / 上土町



静岡初となるクラフトジンの蒸留所。沼津で採れる様々な農産物を使用し、酒造りをする。狩野川沿いの空き家をリノベーション。

週末の沼津

定期マーケット



まちなかの公共空間を活用して、これからの沼津にあってほしい日常の風景をつくる定期マーケット。

シンマチ

コワーキングスペース / 新町



沼津に関わる人のためのコミュニケーションの場所。人と人が出会うことで新しいモノを生む空間を目指して。

MONDAYラウンジ

シェアキッチン / 下香貫島郷



築30年のアパートの1室をリノベーションし、パキスタンの家具でコーディネート。1日から飲食店を出店できる。

アーキペラゴ・ロースタリー

珈琲焙煎所 / 戸田



伊豆半島の西、駿河湾に夕日が美しく沈む戸田(へだ)で、厳選したコーヒー豆を少量ずつ丁寧に焙煎しています。

わたらいクリーニング

休憩所 / 高島町



元クリーニング店をリノベ。昼は駄菓子屋、夜はBAR。沼津ローカルの魅力を北口エリアから発信するマチの「案内所」。

福島屋

乾物屋 / 魚町



『沼津に息づく日本の美しい食文化』を未来へ伝えます。豆や乾物など、店主が目利きした厳選の日本食材を取り揃えています。

いせや本店

食品販売 / 幸町



創業約100年の老舗和菓子屋「いせや本店」を事業承継し、和菓子の素材とサワードウブレッドを掛け合わせ、地域の日常を提供。

サワードウ

食品販売 / 大手町



お花とサワードウのある暮らしをコンセプトに、日常に寄り添うお花たちとカラダにやさしいパンを提供。

永井水産

海ぶどうの養殖 / 内浦三津



廃校となった小学校のプール跡を再活用。沖縄県特産の海ぶどうを沼津の海水を使って養殖し、新たな観光資源の創出を目指す。

_for now

暫定利用プロジェクト



遊休物件の暫定利用で人や活動を集めるプロジェクト。「とりあえず」自由に使うことで新たな事業の可能性を探る。

Retreat in the city

公共空間の活用



「街なかでとり戻す私らしい時間」。狩野川にあって欲しいという思いで始めたローストポークサンド店。市内各所を間借りして出店中。

NEXT SHIN NAKA

公共空間の活用



老朽化したアーケードの撤去を契機に道路空間を再編し、「自然と人が集まる居心地のいい場所」として活用する。

オオオカダンチマルシェ

団地再生



「つながり続けるまちと団地とひと」多世代が暮らし続けられる大岡団地とまちを目指し、団地を見て知って魅力を感じてもらう定期マルシェを開催。

TON MESHU

商品



自分の好きな街の好きな場所で好きな人と食べて欲しいという思いで始めたローストポークサンド店。市内各所を間借りして出店中。

沼津の暮らしラボ

Numazu Lifestyles Laboratory

DIGEST

自分のやりたいことと出来ること、そして地域の課題を掛け合わせ、新たな事業やつながりが次々と生まれてきました。自分や沼津の暮らしを取り巻く別の視点から、それらを見つめ直すきっかけの場として、沼津の暮らしラボを開催しました。

- 座長  青木 純
沼津市リノベーションまちづくりアドバイザー、(株)まめくらし 代表取締役
- 学識  出村 嘉史
岐阜大学 工学部社会基盤工学科 都市・景観研究室
- 専門家  加藤 寛之
都市計画家、(株)サルトコラポレイティヴ 代表取締役
- 地域プレイヤー

住×福祉

#役に立とう、助けようというより、お互いが面白くなるということが一番最初にあり、誰も消費していない #社会の選択肢の少なさが原因 #居場所づくり #好きにならなくていい、見方が変われば接し方が変わる。そこで問題解決をしない。 #いろいろなものを素直に捉えれば、いろいろな考え方が変わる #多様なネットワークが広がる時に物事が動き始める。 #登場人物を増やす。同じ立場の人が集まっていると問題が起きやすいし解消もしやすい。 #ほのぼの関係をデザインする #ベストを狙わずにベターを落としどころにしている #誰かの弱さは誰かの可能性を広げる #優秀な人がつくってきた社会主義社会は今限界を迎えている。まちにあるマイノリティや弱さが一緒にいられる状況を作ることが、新たな価値を生みやすい。今はマイノリティのほうが可能性を持っている。 #面白い人たちが役割をもって町の課題を解決していくことが必要 #つながりや関係性が生まれると居場所の在り方も変わる #それぞれの居場所をしっかりと作り続けることがまちの多様性、まちの立体化、面白さ #「まちづくり」から「まちの関係づくり」へ #面白い人と面白い場所、そこに関係性があるから魅力を感じる #個人の豊かさをひたすら追求することが善しとされ、今限界を迎えている #お互いにつながっている社会の在り方を描く必要がある。 #カルチャーを守るとしてではなく、カルチャーは育てなければならない

公共×デザイン

#エリアマネジメントは、どうにかこうにかすること #自分たちのために自分たちでできることを続ける #幸せに暮らすことと不測の事態に対応するため #自分たちの子供たちとこの地域でどう幸せに暮らすか #自分たちの家族が幸せに暮らすから始まり、地域とつながりができると不測の事態にも対応できる。 #オープンにすることで、地域との関わりも生まれ、自分も幸せになり、結果として安全安心な場所になる。 #成り行き任せ=経済合理性、その対極にあるのが人間 #まちの面白さはそこで出会う人だと思ふ。 #団地のように、まちなかにアーバンビレッジのようなものがあり、その中の人たちが顔を見せあつてつながりあっている。 #経済合理性を求めて、団地に集まってきたが、今は、むしろ対極にあるめんどうくさいことを団地で始めている現状が起きている。 #人とつながることが、面倒くさいことだからこそ、都市機能として団地が出来た #我々は、面倒くさいことを頑張るのではなく、面倒くさいにならない仕組みをつくらなければならない #組織を越えてつながりあうのは個人個人しかない #デザイン×公共は、生態系 #みんならしさを取り戻す #目的、プロセス、関係性などの要素を組み合わせることで常に生態系になり続ける #常に変化に対応し続ける #生態系であることを自然に続けていくことがデザイン×公共 #公共というものに対して、自分たちの目的で関わり続けて、まちがより豊かになり続けるといい。

食×産業

#まちづくりは処方箋 #まちづくりを意識せずそれぞれが素敵なことや素敵なサービスをやるのが健全であり、それが伝播して結果まちづくりになる。 #まちの人たちがそれぞれかっこよく一生涯やるのが一番まちづくりに貢献している。 #本来は、自分たちのアイデアでどれだけまちを楽しめるかという話をするのがまちづくり #楽しみながら自分の職業を通してライフスタイルを作り出しているのが、まちを良くしているということ。そして、それをどう応援するかということ。 #一人一人が自分の面白いことを追求しないと、まちは魂を失う。 #ローカルリティということへの価値 #ローカルリティの追求 #暮らしているうちに気づく地域のすごさ #自ら動くことによって、場所と自分が結ばれるという感覚。 #それぞれの専門性をそれぞれ極め、組み合わせることで生まれる相乗効果の可能性 #一人一人の局地性の組み合わせによって、多様な選択肢が増えている #金銭的に収入が増えなくても、幸福度は高められる #暑いとか寒いとかは関係なく、どの地域でもチャンスがある #地域資源を活かして、ちゃんと伝えれば、地域の人は幸せになる #中の人と外の人との融合 #まちの自己肯定感を高める #自己肯定感が高い人の周りにはそれが伝播する #地域経営課題と自分のやりたいことのベクトルを合わせると成功する確率が上がる

循環×小商い

#サポーターズ #関わりシロ #人を通じて #泥臭さと人が見たい風景が先にある #新たなものをつくるには、社会的意義や理由が必要になっている #人情味と人間味、その辺の揺らぎがきちんと出てくるコミュニティがファンを増やせる #余白 #きっちりし過ぎてないほうがいい #共創共助 #大きく動く人が倫理観を持っているとまちは変わる #それぞれの強みを活かし、弱みを補い合う #生態系 #変化し続ける #ギブアンドテイクではなく、ギブアンドギブ #お互い余白を与え合う #ローカルの力が新しい文化を醸成 #揺らぎが大事であり、みんなで守らなきゃいけないとか、させたくないような人のほうがいい #ゴリゴリやるよりも応援したくなるような人間味が巻き込む力を持っている #集まる仲間の多様性で変化する



「小さくはじめて、大きく育てる」

リノベーションまちづくり

「リノベーションまちづくり」は、市内で増加する空き家や空きビル、空き地などの民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設・公共空間の活用事業を通じ、U・I・Jターン人材による新たなコンテンツが、さらなる新たな人材やコンテンツを呼び込み、多くの市民にとって楽しいまちに生まれ変わることを目標としています。従来の行政主導のまちづくりと異なり、民間主導の収益性を兼ね備えた事業による「民間主導の公民連携型まちづくり」により進めます。

まちに増える遊休不動産 (空き家・空き店舗)

リノベーションの手法を用いて再生

・初期投資を抑制できる
・スピードが速い
・事業性、収益性が高い

一定のエリアにおいて複数の遊休不動産再生を面的に展開

・雇用の創出
・コミュニティの再生
・エリアの価値向上

まちのリノベーション

取り組み年表

